

満月の夜開く けいはんな哲学カフェ

# 第52回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る

— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《思想・文学分野》

## 「和辻哲郎の倫理学—日本の「悲壮な運命」への応答」

講師： 京都大学大学院人間・環境学研究科教授 **安部 浩**先生

**【講演要旨】** 近代日本哲学の精華として、西田哲学と並び称される和辻倫理学。だが他方では、その空前絶後の大業がしばしば、明治憲法下の国体と命運を共にし、敗戦をもってその使命を終えた歴史的遺物として敬して遠ざけられていることもまた事実です。このように今や「死せる犬」と化した感がある和辻倫理学から、我々が現在もなお何かを学ぶことは、はたして可能なのでしょうか。私の答えは「然り」です。しかもそこには、今後我々自身が歩むべき道を示す道標までもが見出されうるように思われます。しかしその為には、目下その生命力が枯渇し、あたら犬死にしつつある和辻倫理学を今一度賦活する必要があります。そこで拙話では再生医療よろしく、それがまさに生まれ出でんとする生成の場面（「幹細胞」？）にまで和辻倫理学を遡源させることで、これを時代の最先端を行く「反グローバル化の哲学」として復活せしめる蘇生術を試みてみたいと存じます。御目まだるきところは袖や袂で幾重にも御隠しあって、荒療治の成否を御見守り下さいますよう。

**【講師紹介】** 1971年新潟生まれ。1993年京都大学文学部哲学科中退、1999年同大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了、京都大学博士（人間・環境学）。同大学同研究科助手、総合地球環境学研究所助手、京都大学大学院人間・環境学研究科助教授・准教授、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団奨学研究員を経て、2016年より現職。2017年度フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞（ドイツ連邦共和国）受賞。専攻は、西洋哲学（存在論、倫理学、環境思想）、日本哲学。著書に『「現」／そのロゴスとエートス—ハイデガーへの応答』（晃洋書房）、『ハイデガー読本』（共編著、法政大学出版局）、『続・ハイデガー読本』（同）、『京都学派の遺産—一生と死と環境』（共著、晃洋書房）。

日時： 2017年10月6日(金) 18:00～ 20:30  
会場： 公益財団法人国際高等研究所  
参加費： 2,000円(交流・懇談会費用を含む)  
定員： 40名(申し込みが定員を超えた場合は抽選)  
申込： 裏面のURLからお申込みください  
詳細： <http://www.iias.or.jp/communication/goethe>  
締切： 2017年10月3日(火)

 公益財団法人  
国際高等研究所  
International Institute for Advanced Studies

けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。

